

2003.6.18

記者発表資料

醍醐コミュニティバス・契約締結と運行計画の決定について —市民主体のコミュニティバスネットワーク—

「醍醐地域にコミュニティバスを走らせる市民の会」では、京都市伏見区醍醐地域の10校区の自治町内会と6校区の地域女性会が中心となって、地域の悲願であるコミュニティバスを走らせる運動を進めてきましたが、このたび運行計画が固まりましたので、関係者が集い運行業務に関する契約を結ぶこととなりました。

この醍醐コミュニティバスは、通院や買い物の足を確保して、地域の生活利便性の向上に貢献するとともに、醍醐地域を訪れる観光客の回遊性を高めることを目的としています。また、市民の手によるコミュニティバスの実現によって地域の活動を活性化し、福祉・医療・環境・教育などの視点から住みやすく魅力のある地域を生み出していくことを目指します。

市民が計画を立案し、地域の各主体がその経費の一部を分かち合う市民共同方式によって実現する新しい形のコミュニティバスネットワークです。

2002年2月のバスの規制緩和によって実現が可能となったこの画期的な市民主体のコミュニティバス計画は、環境への対応や高齢化社会への対応が重視されていくこれからの地域社会の交通に対して、新たな可能性を与えるものであると考えます。

このバスの成功に向けて、今後とも市民の会・事業者・協力施設等が一致協力して進めていきたいと考えています。

皆様のご理解と協力もあわせてお願いいたします。

2003.6.18

醍醐地域にコミュニティバスを走らせる市民の会
株式会社 ヤサカバス
医療法人医仁会武田総合病院
総本山醍醐寺
パセオダイゴロー（東館・西館）

1. 特徴と意義

- わが国初の市民の手による本格的なコミュニティバスネットワーク
市民の会が計画を立案し、地域内の中核的な施設の協力により成立。
2002年2月に実施されたバス規制緩和の成果。
- 既存バスとは異なる視点からの路線設定
これまで路線バスが成立するとは考えられていなかった住宅地域の中に、公共交通サービスを提供するもの。(英国などではペネトレーション(浸透)と呼ばれて、地域交通の重要な目標の一つとなっている。)
- 住民意見を取り入れることが最も重要な基本姿勢
市民フォーラムの実施、パンフレット・アンケートの全戸配布、学区ごとの集いの開催などを行ってきた。
ルートを原案の段階から発表し、住民意見を募りながら最終案を策定する。
バス停の位置も地元の町内会が決めることを基本とする。
- 行政・社会全体への貢献
 - ・市民の力によって行政に頼ることなく、市民へのサービス向上が達成できる。
 - ・陳情型の路線設置要望から、市民主体の動きへと変革していくことのきっかけとなるもの。
 - ・協力施設との共同方式は、これまで公共交通サービスを受けることができなかった地域でのバス設定に大きな可能性を開く。

2. 計画概要

- 路線数：4路線（別紙）
- 地区の中心である地下鉄醍醐駅をネットワークの核として、病院・商業施設・公共施設などへの足となる路線。世界遺産でもある醍醐寺への観光客の利便性も考慮。
- 既存バス路線とはできる限り重複しないように設定。
- 路線によって20分～1時間の間隔。昼間時間帯を主体として運行。休日等は別ダイヤを検討中。
- 運行経費は、運賃収入・協力施設等による協力金・その他広告等によって賄う。
- 運賃は未定。原案は、1日券300円をメインとし、1回券は200円。
- 道路運送法(4条)の免許申請は、(株)ヤサカバスが行う。
- 協力施設の中核は、
医療法人医仁会武田総合病院、総本山醍醐寺、パセオダイゴロー（東館・西館）
- 地域の一般商業施設・病院等も、パートナーとして参画。
個人応援団による募金も募集中。

3. 目的

- 単なる交通機関としてではなく、コミュニティ活動やボランティア活動など様々な市民活動の架け橋になって、地域全体のつながりを高めることが目的。
- 具体的には「病院など医療施設への足を確保すること」、「商業の活性化に寄与すること」、「高齢者等の活動を支援すること」、「環境に貢献すること」、「既存公共交通の活性化に寄与すること」などを旨とする。
- 世界遺産醍醐寺を中核とした醍醐地域の観光振興など地域の活性化に寄与することも目標。

4. 検討の経過

- 「市民の会」は 2001 年 9 月に発足。金沢のふらっとバス見学会の実施や、各種シンポジウム・ワークショップへの参加などの活動を行う。
- 「京のアジェンダ 21 フォーラム」、「弥栄自動車」の協力を得て、自主運行を検討。運行計画委員会を設置。京都大学の交通研究者も参画。
- 市民フォーラムを 2002 年 7 月に実施して計画案を提示。200 名を超える多くの市民が出席。
- 運行計画の趣旨や概要を記したパンフレットを作成して地域内の全戸（約 20,000 世帯）に配布し、同時にアンケート調査を実施。
- 直接、住民の意見を聞くために地域内の学区ごとに「コミュニティバスを走らせる学区の集い」を開催して意見を交換。2002 年 9 月以降。
- 醍醐コミュニティバスパートナーズ(一般商店等による協力)募集開始。2003 年 1 月から
- 醍醐コミュニティバス個人応援団募集開始。2003 年 3 月から
個人応援団 1 口年間 3000 円または 10000 円。
郵便振替 「醍醐にコミュニティバスを走らせる市民の会」
口座番号 00970-3-240566
- 市民の会役員会 開催 12 回、運行計画検討委員会 開催 18 回

5. 今後の体制

デザイン・広報などを市民主体で進めていくため、ワーキンググループを設置。

- ① デザインワーキンググループ
- ② イベント・利用促進ワーキンググループ
- ③ ホームページ・広報等ワーキンググループ

④運行・運営関連ワーキンググループ
など

6. 予定

今後、運輸局・道路管理者等への申請を行うとともに、バスの購入・バス運転手の募集・試運転等を行う。2003年秋の運行開始を目指す。

(参考資料)

●醍醐コミュニティバスの各関係主体の主な役割

・市民の会

- (1) バスの運営に関する業務。バスの運行及び運行に関連する業務の委託。
- (2) バスの利用促進運動。
- (3) 運行協力金・広告費等の徴収・支出等の管理
- (4) その他、運行実績・財務状況等の管理、広報業務等。

・ヤサカバス

- (1) バスの運行及び運行に関する業務。
- (2) バスの運行に関するマニュアルの作成とその誠実な実行。
- (3) 乗車人数等、運行業務実績に関する情報の整理と報告。
- (4) バス車両・バス停の維持管理。

・中核施設

- (1) 運行協力金・広告費等による運行経費の支援。
- (2) 利用促進運動への協力・参画

●ペネトレーション(penetration)

住宅地域などへの公共交通の「浸透」を表す言葉で、英国などでは地域交通計画における重要なキーワードのひとつとなっている。幹線道路を主体として運行されている従来のバスに対して、住宅街をきめ細かく運行するバスサービスを提供することにより、高齢者などの公共交通の利用可能性を高めるものである。

わが国で急速に普及しつつあるコミュニティバスには、従来のバス路線をそのまま引き継いだ廃止代替バスの性格のものが多かったが、バスサービスのない地区に新たな路線を設けるペネトレーションの意味合いを持つものも次第に増加しつつある。

●醍醐地域の交通の現況

醍醐地域には、京都市営地下鉄東西線の終点である醍醐駅があり、地域を縦貫する3本の幹線道路はいずれもバス路線になっている。しかし、住宅街や団地の多くは山沿いの坂の上などに立地しており、バス停まで歩いて往復することが大変な地区が多い。

また、比較的早い時期に建てられた市営住宅などが多い地域で、高齢化も進んでいるうえ、細い道路も多いことなど、高齢者や子供にとってはバス停まで到達することが容易ではない状況である。

1997年に地下鉄が開業し、京都市中心部への利便性は大きく向上したが、それに伴って市バスが撤退するなど、地区内の移動はかえって不便になったという思いを抱いている住民が多い。